

マンガ業界にマンガ研究界限と、2024年もさまざまな出来事があった。慌ただし  
く過ぎ去っていくそんな1年間をふりかえるために、毎年末に開催しているのがト  
ークイベント「マンガカフェ」である。2009年に第1回を開催して以来、足かけ15年、  
当センターの名物企画としてすっかり定着している。

2021年までの12年間は、大阪大学と本学の共催事業として京阪電車「な  
にわ橋」駅のコンコースにあるイベントスペース「アートエリアB1」で実施。オー  
プン参加の形態で、日本マンガ学会関西支部のメンバーや京都精華大学の関係  
者も多く集まる。開催趣旨ともあいまって、顔見知りによる忘年会のような雰囲気  
だ。その年の目立った研究動向や展覧会の様子、各自がお気に入りのマンガ作  
品などを紹介するという、ゆるやかながらも有用な情報共有と人的交流の機会を  
担ってきた。2022年からは会場を京都国際マンガミュージアムに移した<sup>1</sup>が、コロ  
ナ禍の経験を活かし、現在はオンライン視聴も可能な環境にある。

このマンガカフェで恒例となっている話題の一つに、当年の物故者のお知ら  
せがある。漫画家や研究者など、私的に親しんだり仕事を通じてお世話になっ  
たりした方々のお名前とご功績をふりかえるわけだが、2024年も少なくない惜別が  
あった。

ただ、年末のイベント当日には言及できなかった故人もおられた。ここで、そ  
のお二方についてお知らせしたい。

お一方は、中島隆さん。1951年生まれ。高校三年生の時に『COM』の「ぐ  
ら・こん」関西支部に入会後、71年に第3代支部長に就任された。72年には『あ  
っぷる♥コア』の代表を務められるなど、大阪を拠点として、マンガとファンコミュニ  
ティの運動に青春を捧げられた方である。

中島さんの訃報は、マンガカフェの打ち上げの席で、マンガ史研究者の想田  
四さんと「図書の家」の小西優里さんから教えていただいた。11月のことだったと  
いう。数年前から闘病されていたことはご本人から伺っていたものの、驚くと同時  
に今年なぜイベントに参加されていなかったのか腑に落ち、一気に現実感を覚  
えた。

中島さんはマンガ学会の関西支部にも参加されていたが、私のほうがほとん  
ど出席できておらず、顔見知りになったのは少しあとのことだった。2009年8月2日  
に京都国際マンガミュージアムで開催した「伝説のマンガ月刊誌『COM』を語る  
一休刊38年目の座談会」に、中島さんが登壇された前後だったと記憶している。

ありがたいことに中島さんは、コロナ禍の時期も含め、いつもマンガカフェとそ  
の後の忘年会に参加されていたが、たまたま帰りの電車が一緒だったので、二人  
きりで会話することもあった。そんな時は決まって「吉村くん、毎年ここでみんなと  
会えるんがうれしいんや」「こんな年寄りの話なんて、なんもおもろくないんやけどな」  
と、笑顔で仰っていた。その温厚なお顔と関西弁が鮮明に思い出される。

もうお一方は、村上知彦さん。1951年生まれで、編集者、漫画評論家、大学教員として長年ご活躍された。そのお人柄やご功績については周知の通りだろうし、個人的な思い出も語り尽くせないほどあるので、詳しくは別の機会に譲るとして、ここではマンガカフェ絡みの出来事だけ少し書き留めておきたい。

村上さんもイベントの本番と終了後の忘年会にいつも参加され、気さくに談笑しながら美味しそうにビールをおかわりされるのが常だった。その度、ご本人にはまったくそんな気はないのだろうか、不意にマンガ史上の貴重な証言やご経験上の金言が飛び出すため、耳を澄ませながら酔いが回っていくという濃密な時間を過ごした(これは中島さんも同様である)。

ところが、2015年に肺を患われた村上さんは自宅療養に専念されることとなり、忘年会には参加できなくなってしまわれた。大変ショックだったが、ご本人こそ残念だったに違いない。ただし、いま「忘年会には」と書いた通り、宴会はご欠席だったものの、あらかじめメールで「今年の一作」を選考していただいたり、コロナ禍以降はオンラインで視聴されたり、時には村上さんに伝言を託された息子さんが会場に来られたりと、実はマンガカフェにはご療養中もあの手この手で参加されていた。

そのメールを読み上げる時、息子さんが代弁される時、和やかなイベント会場の雰囲気が一瞬ピリッと引き締まる。「関西には村上さんがいらっしやるのだ」という信頼感と、だからこそしっかり研究しなくてはという畏敬の念が、私たちがマンガカフェを継続する一つの動機だったのだと、今になって身に染みる。

村上さんのご命日は2024年12月22日。マンガカフェの翌日のことだった。改めて、中島さんと村上さん、そして、物故者のみなさんのご冥福をお祈り申上げたい。

結びに、今年末もマンガカフェを開催することを、ここでお約束する。それに限らず、マンガに関心を寄せる人たちが気兼ねなく交流できる場を、これからも積極的かつ継続的に設けていくことも。

ということで、みなさん、年末に京都でお会いしましょう。

2025年2月22日